



本町ほのぼのだより 第13号

発行：中野区立本町図書館 中野区本町2丁目13番2号 TEL 03-3373-1666

発行年月日：平成25年6月29日 第13号

第13回 本町図書館 個性づくりテーマ展示

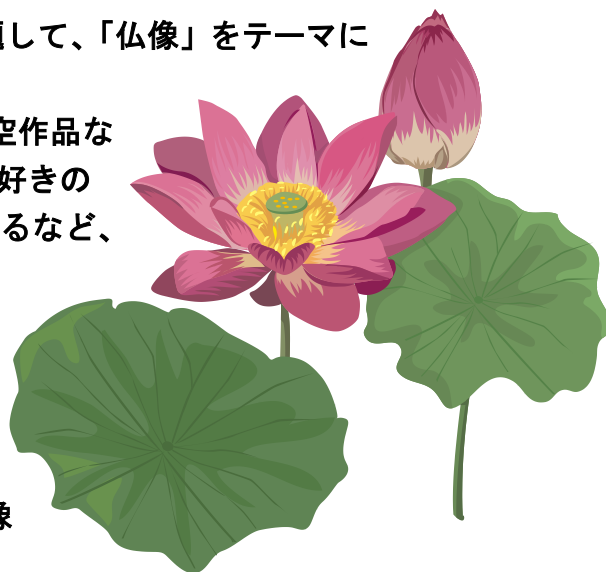
仏像へようこそ！

本町図書館では、『文化・芸術・芸能』に関する資料を、絵画や音楽、工芸、伝統芸能など幅広い分野にわたって収集・展示をしております。

第13回目となる今回は、「仏像へようこそ！」と題して、「仏像」をテーマにした展示をお届けします。

昨今、博物館や美術館では、興福寺の阿修羅像や円空作品など仏像をテーマにした企画展が盛況です。また、仏像好きの女性のことをさす「仏像ガール」という言葉が生まれるなど、若い世代にも関心が広がっているようです。

一方で、仏像に興味・関心はあるけれど、仏像の事がよくわからないという方も少なくないと思います。仏像の名前が難しい、仏像の何を見ればよいのかわからない…。しかし、よくわからないからと言って、敬遠するのはもったいない！今回紹介する本を手に、仏像に会いに行かれると楽しみが広がるはずです。



展示場所：本町図書館 2階書架

展示期間：平成25年6月29日(土) ～ 8月29日(木)

※ 展示資料は貸出もできません。

仏像とは？



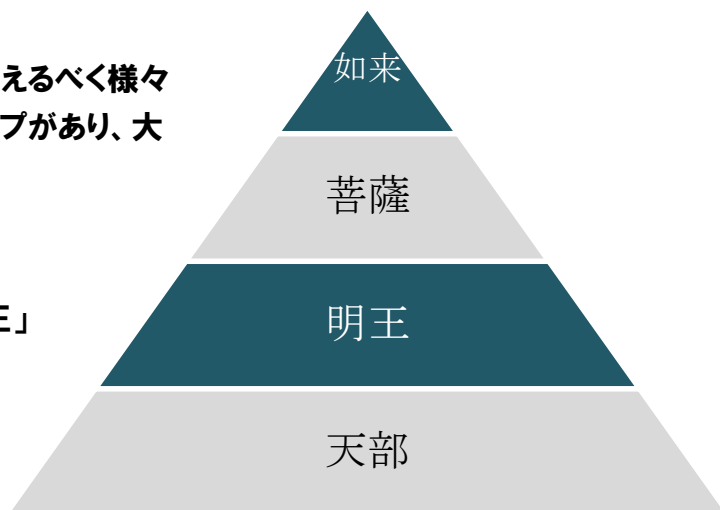
仏像とは仏の姿を彫刻にあらわしたもの。仏教の始まりは紀元前5世紀から4世紀頃のインドと言われていますが、仏像が作られ始めたのは、それよりもずっと後で、紀元1世紀頃のこと。

場所はパキスタンのガンダーラ地方とインドのマトゥラ地方。日本には6世紀中頃、百済より仏教と共に伝来しました。もともとは悟りをひらいた仏陀(如来)の像のことでしたが、仏教の教えが広がるとともに様々な仏像が発生しました。現在は如来像、菩薩像、明王像、天部像のほか、神将や羅漢像も含まれます。

仏像のグループ

仏教の教えが広がると、人々のあらゆる期待に応えるべく様々な仏像が作られるようになりました。仏像にはグループがあり、大きく4つに分かれます。

- 1: 悟りを開いた仏陀をモデルにした「如来」
- 2: 出家前の釈迦を表した「菩薩」
- 3: 密教の教えによる大日如来の化身のひとつ「明王」
- 4: インド古来の神々を仏教の護法神とした「天部」



悟りの姿「如来」

「如来」は悟りをひらいた者のこと。仏教を始めた、古代インドの「釈迦」が最初の如来です。その姿を表すため、ほとんどが「納衣」と呼ばれる質素な一枚の布をまとった姿をしています。その後、仏教の教え・話(お経)に基づき様々な種類の如来が考えだされました(病気を直し現世利益をもたらす「薬師如来」、極楽から人々を迎えに来る「阿弥陀如来」等々)。これら如来の体には、32の特徴がそなわっているとされています。代表的なものは、パンチパーマのような髪の毛。これは修行の間に伸びた一本一本の毛が丸まったもので「螺髪」と呼ばれています。額にあるのは白い毛が丸くなった「白毫」。他にも体全体が金色に輝いているとか、手が膝くらいまで長く、手のひらには水かきがあるなどの特徴があります。



修行中の「菩薩」

「如来」になるために修行をしているのが「菩薩」。悟りを求めて修行をしながら、苦しむ人々を救う仏のことです。そのために、様々な法力や功德を持つ菩薩が作られました。悟りをひらく前の釈迦がモデルになるので、古代インドの貴族の格好をしています。髪は長く伸ばし、頭の上で結びあげ、下半身は巻きスカート、冠や首飾りなど豪華な装飾品を身にまとっています。(地藏菩薩だけは頭をまるめたお坊さんの姿)代表的な「弥勒菩薩」は釈迦入滅から56億7千万年後に如来になることが約束されています。「観音菩薩」は人々を救うために「千手観音」や「十一面観音」など様々な姿を変えます。



密教の仏像「明王」

「大日如来」の分身のひとつが「明王」。強い力で人々を導くために表情は怒りに満ちて、背には炎を背負います。代表的な「不動明王」は煩惱を焼き浄め衆生を教化します。

「天部」はインドの神々

仏教よりも前からいたインドの神さまが仏教に取り入れられたのが「天部」。お堂の四隅で「如来」や「菩薩」を守る「四天王」や、お寺の門で仏法を守る「金剛力士(仁王)」などガードマン的存在です。女性の「天」には「吉祥天」や「弁財天」などがいます。



参考文献:「ポブラディア」(ポブラ社) 031ソ 本町図書館他所蔵

:「仏像のひみつ」山本勉・著(朝日出版社) 718ヤ

本町図書館他所蔵

:「仏像」副島弘道・監修(日東書院) 718フ

本町図書館他所蔵

【日本の巨大仏 ベスト 10】



大きな仏像といえば有名なのは奈良の大仏様ですが、14.98mと数字で見ると意外と小さいですね。ウルトラマンは 40m、初代ゴジラは 50mだそうです。

彼らと同じ位の大きさや、もっと大きな仏像が日本にはこんなに沢山存在するのです。

	名称	高さ		所在地
1位	牛久大仏	120.0m	東京本願寺	茨城県牛久市
2位	小豆島大観音	108.0m	仏齒寺	香川県小豆郡
3位	仙台大観音	100.0m	大観密寺	宮城県仙台市
3位	淡路島世界平和大観音	100.0m	平和観音寺	兵庫県津名郡
4位	北海道大観音	88.0m	北の京芦別	北海道芦別市
5位	加賀大観音	73.0m	観音院加賀寺	石川県加賀市
6位	久留米大観音	62.0m	成田山久留米分院	福岡県久留米市
7位	会津慈母大観音	57.0m	会津村	福島県河沼郡
8位	東京湾観音	56.0m	東京湾観音協会	千葉県富津市
9位	うさみ大観音	50.0m	うさみ観音寺	静岡県伊東市
10位	釜石大観音	48.5m	石応禅寺	岩手県釜石市

参考文献 「晴れた日は巨大仏を見に」宮田珠己・著(幻冬舎) 291ミ 本町図書館他所蔵

【仏像は男性？女性？】

そもそも仏像は男性なのでしょうか？女性なのでしょうか？「天部」の仏像は男女の別がほぼ一目でわかります。帝釈天や梵天、四天王、十二神将などの甲冑や武具を身につけている仏は男性。吉祥天、弁財天、鬼子母神などは女性です。「天部」の仏には「毘沙門天と吉祥天は夫婦で、その子が善膩師童子」などのストーリーがある程で、男女の区別ははっきりしています。「明王」は男性。不動明王の仏像制作規定に「童子(男の子)の形に作る」と書かれているからです。

では「如来」と「菩薩」はどうなのでしょう？如来は悟りを開いたあとの釈迦。菩薩は王子時代の釈迦の姿をモチーフにしています。釈迦は実在した男性なので、如来も菩薩も男性のはずですね。しかし釈迦への信仰はそうではありません。仏教が大衆を救済する大乘仏教になったとき、釈迦はもはや実在の人物ではなく、超人的な姿と能力を発揮する釈迦如来として信仰されはじめたのです。常人とは違う体の特徴を具えた、性別を超越した存在なのです。



参考文献

「仏像の魅力 必携！鑑賞ハンドブック」谷敏朗/金子謙士・著(日本実業出版社) 718タ 本町図書館所蔵



【仏師なくして仏像なし】

時代・様式・仏師によって姿・形を変える仏像。仏師界3人のキーマンをちょっとだけ、見てみよう！

◎日本初、仏師第一号、その名も・・・「^{くらつくりのとり}鞍作止利」

仏教伝来より50年後、日本初の本格的寺院「法興寺(飛鳥寺)」が建立されました。その時、安置された釈迦如来像を制作したのが「鞍作止利」です。止利の祖父は、大陸からの渡来人で、馬具を作っていた一族です。止利は馬具作りの技術を生かし、金銅仏制作にあたります。その特徴は面長の顔に杏仁形(アーモンド・アイ)の眼、口元は微笑み(アルカイツク・スマイル)、全体的に細身で、衣は左右対称を特徴とし、「止利様式」と呼ばれています。現在止利の制作が確実にわかるものは「法隆寺金堂(奈良)の釈迦三尊像」です。この光背の裏には「司馬鞍作首止利」の刻銘が残っており、これが仏師の名称を使った初の例になります。

◎仏像の本流を築いてしまった男・・・「^{じょうちょう}定朝」

「定朝」は平安時代中期、藤原道長・頼道が権力を握り、宮廷文化が発展した時代に活躍した仏師です。貴族による寺院建立が盛んに行われ、仏像の需要が増えていく中、定朝は「寄木造」の技法を完成させ、仏像制作の分業化、合理化を図ることにより見事、需要に応えていきます。また、当時は遣唐使の廃止により、文化の和様化が進んでいましたが、定朝は貴族の趣向を反映した、繊細優美な仏像の「和様彫刻」を完成させます。その特徴は柔らかい体つき、ぽっちゃり顔、穏やかな表情、小さな目鼻立ちで、衣の表現は単純で形式化されたものになり、「定朝様式」と呼ばれ、日本の仏像の本流となっていきます。定朝の一門は以後、「院派」「円派」「奈良仏師」に自然な形で分派していき、中央の仏像制作を独占していくことになります。定朝の作品は「平等院鳳凰堂(京都)の阿弥陀如来坐像」が唯一現存するものになります。

◎仏師界のスーパースターはやっぱり・・・「^{うんけい}運慶」

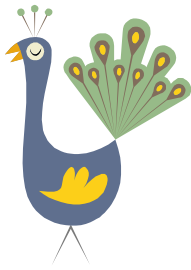
「運慶」は平安末期から鎌倉前期にかけて活躍した「慶派」の仏師です。慶派は「奈良仏師」の傍流で、運慶は定朝から数えて六代目にあたります。奈良仏師の主な仕事は古仏の修理で、直接天平時代の古典に触れる機会に恵まれました。そのため慶派は定朝様式からの脱却を図り、天平時代の「写実表現」を求めていきます。折しも時代は貴族から武士に実権が移り、鎌倉幕府成立に伴い、関東で武士による仏像制作が盛んになっていきました。そんな中運慶は、北条氏をはじめ、関東の武士からの依頼を盛んに受けることにより、武士好みの力強く、重量感、緊迫感ある写実性にとんだ様式を確立していきます。そして、幕府とのつながりを強め、幕府支援による「南都復興」の際には、大半の仕事を受けることに成功し、運慶は表舞台に出ていくことになります。運慶の作品は「浄楽寺(神奈川)の阿弥陀三尊像、不動明王立像、毘沙門天立像」、「東大寺南大門(奈良)の仁王像(快慶と共作)」など多数現存しています。

参考文献「眼福の仏像」江里康琴・著(集英社) 718 頁 中央図書館所蔵

「仏像の見方」沢村忠保・著(誠文堂新光社) 186 頁 江古田図書館他所蔵

「仏師の系譜」佐藤昭夫・著(淡交社) 718 頁 中央図書館所蔵





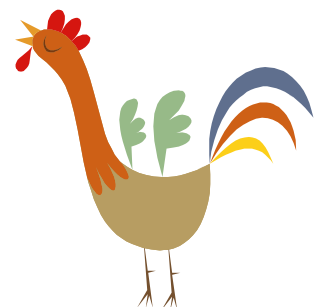
展示図書リスト

書名	著者	出版社	出版年	分類記号
神社・仏閣ぴあ [2013]		ぴあ	2013	175.9ジ
仏教画伝	大森義成監修	G.B.	2011	186.8フ
運慶 リアルを超えた天才仏師	山本勉・他・著	新潮社	2012	712.1ウ
開運！知っておきたい仏像の基本		権出版	2011	718カ
日本の仏像巡礼		徳間書店	2012	718ニ
日本の秘仏を旅する		平凡社	2013	718ニ
仏像の知られざるなにかみ	青木淳監修	宝島社	2013	718フ
へんな仏像	本田不二雄著	学研パブリッシング	2012	718ホ
みちのくの仏像	大矢邦宣監修	平凡社	2012	718ミ
仏像のひみつ	山本勉著	朝日出版社	2006	718ヤ
仏像のひみつ 続	山本勉著	朝日出版社	2008	718ヤ
近江若狭の仏像	吉田さらさ著	JTBパブリッシング	2012	718ヨ
仏像の表情 入江泰吉写真集	入江泰吉著	新人物往来社	2011	718.0イ
仏像に恋して	真船きょうこ	新人物往来社	2010	718.0マ
仏像 日本仏像史講義	山本勉著	平凡社	2013	718.0ヤ
円空 微笑みの謎	長谷川公茂著	新人物往来社	2012	718.3ハ
笑とる仏	岩谷薫著	西日本出版社	2011	718.4イ
巨大仏！！	中野俊成著	河出書房新社	2010	748十

【中野区内の仏像を紹介した本】

仏像と言えば、奈良と京都のお寺に行かなければ見れないと思っている方もいらっしゃるはず。しかし、遠くに行かなくても身近に仏像はあります。たとえば、町を散歩しているとお地蔵さんや石仏を見かける事があります。また、お寺には仏像を保管しているところがあります。このコーナーでは、中野区内の仏像を紹介した本をご案内します。

- 「路傍の石仏をだずねて」 中野区教育委員会 1995年 P50 A
- 「中野区の仏教美術」 中野区教育委員会・山崎記念中野区立歴史民俗資料館
1996年 Q43 A
- 「東京都中野区内の石仏」 中野区教育委員会 1968年 M12 A4



※今回紹介した本は、本町図書館地域資料コーナーにあります。

●東京国立博物館●

1872年に創設された日本初の博物館。日本・東洋の美術品、歴史資料、考古遺物などを収集・保管し、展示しています。本館1階の他に、法隆寺宝物館1階には飛鳥～奈良時代の仏像を、東洋館には大陸の仏像を展示。東洋館、法隆寺宝物館、本館の順に見学すると、仏像の変遷がわかります。

◆アクセス: JR「上野駅」公園口、または「鶯谷駅」南口下車・徒歩10分(台東区上野公園13-9)

◆ウェブサイト: <http://www.tnm.jp/>

◆電話: 03-3822-1111(代表)

●大倉集古館●

1917年、日本最初の私立美術館として創立。実業家の大倉喜八郎・喜七郎父子によって収集された日本・東洋の古美術を中心に、展示しています。都内唯一の国宝仏・普賢菩薩騎象像を所蔵。この仏像は常時陳列されており、リアルな象の彫刻は一見の価値ありです。

◆アクセス: 東京メトロ南北線「六本木一丁目駅」下車・徒歩5分(港区虎ノ門2-10-3)

◆ウェブサイト: <http://www.shukokan.org/>

◆電話: 03-3583-0781(代表)



さあ、出掛けよう！

★おすすめの施設紹介★

●根津美術館●

東武鉄道の社長を務めた根津嘉一郎によって収集された日本・東洋の古美術品コレクションを保存し、展示するために創設された美術館。入口入ってすぐのホールに、古代中国の仏像が並びます。

◆アクセス: 東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線「表参道駅」下車・徒歩8分(港区南青山6-5-1)

◆ウェブサイト: <http://www.nezu-muse.or.jp/>

◆電話: 03-3400-2536

●松岡美術館●

2000年4月に現在の場所に新美術館が建設されました。創設者松岡清次郎のポリシーを踏襲し、他の美術館から借りての特別展を行っていません。創設者こだわりの古代東洋彫刻コレクションの中には、ガンダーラの菩薩半跏思惟像があります。この像は日本の半跏思惟像にも影響を与えた作品と考えられています。

◆アクセス: 東京メトロ南北線・都営地下鉄三田線「白金台駅」下車・徒歩6分(港区白金台5-12-6)

◆ウェブサイト: <http://www.matsuoka-museum.jp/>

◆電話: 03-5449-0251

本町図書館からのお知らせ



本町図書館個性づくり展示「仏像へようこそ！」はお楽しみいただけましたでしょうか。これからもみなさまの身近にある、お役に立つ図書館、新しい発見のある図書館を目指して、スタッフ一同取り組んでまいります。



☆おはなし会☆

毎週土曜日 11:00～11:30
第4水曜日 15:30～16:00
児童室にて開催中！
第4土曜日は乳幼児向けの
「おひざでだっこのおはなし会」

☆個性づくり展示☆

第九回・ジブリ
第十回・工芸
第十一回・歌謡曲
第十二回・美術館

過去の個性づくりの本も
展示しております。
是非ご覧下さい！

第一回・岡本太郎
第二回・落語
第三回・映画
第四回・伝統工芸
第五回・音楽
第六回・デザイン
第七回・浮世絵
第八回・舞台は、
1階7門書架にあります。

☆開館時間・休館日のお知らせ☆

開館時間: **9:00～20:00**

休館日: **第2月曜日 & 最終金曜日**

[4月1日より上記の通り変更になっています]

☆7月・8月の休館日のご案内☆

<7月> 8日(月)、26日(金)

<8月> 12日(月)、30日(金)

☆イベントのご案内☆

7月6日 たなばたかい 11:00～12:00

8月2日 「戦争と平和」のおはなし会 11:00～12:00

「本町ほのほのだよ」
第14号は8月31日
発行予定です。

